

京都ホテルオークラ
ロビー インスタレーション
“Carp is dragon in heaven” by
京都が生んだ 壁画師
木村英輝氏

京都ホテルオークラ(本社:京都市中京区 ㈱京都ホテル、大証2部上場、代表取締役社長 平岩孝一郎)は、京都出身の作家、木村英輝氏の作品を起用し、ロビーに「登竜門」をテーマとしたインスタレーションを展示致します。

- 【場 所】 京都ホテルオークラ 1F ロビー中央
- 【期 間】 2011年12月26日(月)～2012年1月20日(金)まで
- 【大 き さ】 長さ6.5メートル、幅1.8メートル
- 【形 状】 吹き流し状 / 描画・彩色された4枚のファブリック(生地)をロビー天井中央から垂下
- 【内 容】 2012年の干支となる辰にちなみ、登竜門の故事からとった“竜になるべく滝を登る鯉”を描いた作品。2012年は創業124周年を迎え125周年に向い125匹の力強い鯉が描かれています。

インスタレーション概要

「Carp is dragon in heaven」

「登竜門(とうりゅうもん)」

中国の故事『後漢書』の“急流を登り切った鯉(魚)は龍になるとの伝説”を引用した故事成語。黄河上流、山西省辺りの流れに、両岸が絶壁の宮殿の門のような姿の激しい流れがあったそうで「龍門の滝」と呼ばれていた。魚たちはこの滝を登る事が出来なかつたので、ここを登り切る鯉は龍になれると信じられ、後に難局を乗り越え、その先に行ける関門のことを表す意となる。

「木村英輝氏」

“ロックなアート”と形容される作品を次々と生み出される。

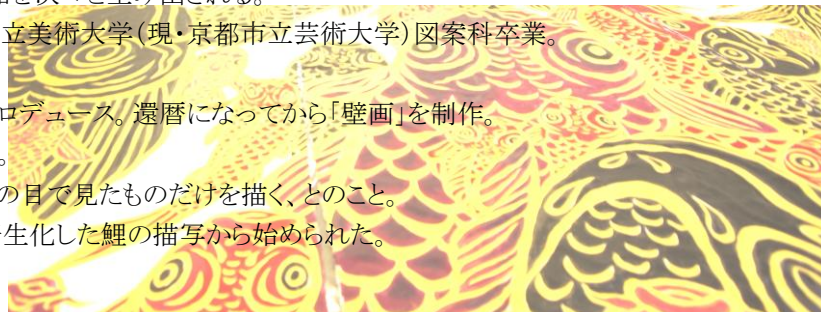
1942年生まれ。絵描き。京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)図案科卒業。同大講師を務める。

1970年代にはロックイベントもプロデュース。還暦になってから「壁画」を制作。

寺院、商業施設の壁画など多作。

木村氏から生まれる造形は自身の目で見ただけを描く、とのこと。

今回の鯉も京都の宝が池の半野生化した鯉の描写から始められた。



★本件に関するお問い合わせは

京都ホテルオークラ 営業企画部 営業企画課 広報担当 坂田

京都市中京区河原町御池 Tel 075-254-2524 (直通)

e-mail sakata@kyotohotel.co.jp

<http://www.kyotohotel.co.jp/>